

## 【太田市】

### 1人1台端末の利活用に係る計画

#### 1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

本市における「学校教育指導の重点」の中で、ICTに関わる指導のポイントとして以下の内容を掲げている。

○確かな学力の確実な定着に向けた指導の充実

- ・ICTの効果的活用と個に応じたきめ細かな指導により、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るとともに、思考力・判断力・表現力等を育成しながら、学ぶ意欲の向上に努めます。

○情報教育の充実

- ・各教科等において、児童生徒の発達段階に応じた情報教育に関する内容を計画的・系統的に行うことにより、情報活用能力の育成に努めます。
- ・ICT活用の特性と強みを最大限に生かし、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業を推進し、児童生徒の学力の向上に努めます。
- ・SNSの利用時に守るべきルールやマナーを身に付くよう、情報モラルの育成に努めます。

本市では、ICT環境を整備するだけでなく、その効果的な活用も重視している。これにより、児童生徒は情報社会を生き抜くための力を身につけ、主体的に学び、社会に貢献できる人材へと成長していくことが期待される。

#### 2. GIGA第1期の総括

国の「GIGAスクール構想」に基づきICT環境の整備を進め、市内小・中・義務教育学校41校において、児童生徒1人1台の学習用端末として約2万台の端末を整備し、高速大容量の通信ネットワークを構築した。また、普通教室の大型モニターの整備も令和5年度末までに完了した。令和3年からは学習支援ソフトである「eライブラリ」を端末から利用できるようにし、家庭でもドリル学習等が行えるよう支援してきた。また、令和6年度には授業支援ソフトとして「ミライシード」を導入し、活発な意見交流や協働作業を行う授業展開を推進した。

整備完了後、各学校ではICTを活用した授業実践が開始された。デジタル教科書や教材の活用、オンラインでの協働学習など、様々な取組が展開された。これらの取組により、児童生徒の学習意欲や理解度の向上に努めてきた。

一方で、課題も明らかになった。ICT活用能力の格差、情報モラル教育の徹底、ICT環境の維持・更新などが挙げられる。ICTの操作について教職員の研修が必要となり、夏季休業等を活用して、保守業者等による操作研修会を各校で実施してきた。新たなソフトや機能の習熟のためには、継続的な研修が必要である。

今後は、第1期の成果と課題を踏まえ、第2期ではICT活用教育のさらなる推進と質の向上を目指す。具体的には、教職員のICT活用指導力の向上、個別最適な学びの実現、情報モラル教育の充実などに重点的に取り組む。

### 3. 1人1台端末の利活用方策

本市では、端末の整備・更新により、児童生徒向けの1人1台端末環境を引き続き維持し、以下のような利活用方策に取り組んでいく。

#### (1) 1人1台端末の積極的活用

各教科等においてICTを活用し、「疑問を持ち調べる」、「考えたことを人に伝える」といった学習活動を積極的に行っていく。また、必要に応じて家庭での学習等に活用できるよう、端末の持ち帰りについて啓発と検討を重ねていく。

#### (2) 個別最適・協働的な学びの充実

学習支援ソフト「eライブラリ」の活用により、児童生徒が自分の理解度に合った課題に取り組めるよう、引き続き指導を行っていく。また、授業支援ソフト「ミライシード」の活用により、活発な意見交流や協働作業を行う授業展開を推進していく。

そのためには、これまで本市で行ってきた教職員の研修を今後も継続していくことに加え、文部科学省リーディングDXスクールによる先進的取組を参考としていくことが大切なポイントとなる。

#### (3) 学びの保障

1人1台端末を活用したオンライン授業を継続させ、不登校児童生徒が授業へ参加できる機会を提供していく。また、前述の「eライブラリ」の家庭での活用により学びの保証へとつなげていく。「心の健康診断」としての端末の活用について、様々な観点からの有用性を検討しながら模索していく。外国人児童生徒や障害のある児童生徒に対する支援について、翻訳・読み上げ・視聴覚に効果的なアプリケーション等の開拓を行って水平展開していく。